

平成20年度 事業報告

I 一般事業の概要

- 調査研究事業については、奈良・松戸事業をフィールドとした調査、研究を行いました。
- 助成事業については、介護福祉士等を目指す専門学校生等へ引き続き奨学金助成を行いました。

1. 調査研究事業

(1) 生きがい増進

- ・地域を含めた生きがい増進の活動拠点である『高齢者総合福祉センター』で、文化教養講座、カルチャー教室、コンサート等を実施しました。

(2) 福祉サービス

- ・昨年度に引き続き、奈良・松戸両施設における入居者のCS向上を図るため、両施設内の接遇委員会と現場職員が主体となって接遇向上への取組みを推進し、「接遇の手引き」を活用した新人教育の実施、クレーム対応研修、コミュニケーション研修等を実施しました。

(3) 総合生活支援サービス

- ・地域に密着した事業推進を目的として、奈良新聞社等が企画した講演及び情報提供のイベント（「Beautiful Life～生き生きと輝いた老後を～」）に協賛するとともに、財団ホームページの改訂、講演会の開催等、奈良・松戸両施設ともに地域住民、顧客、入居者を対象としたパブリック・リレーション活動を継続しました。

(4) まちづくり

- ・高齢期のすまいの選択肢のひとつである有料老人ホームの仕組みや探し方等をテーマにした講演会を通じて入居希望者の関心事や動向を探るとともに、当該調査を支える情報インフラとして、奈良・松戸の顧客管理システムのバージョンアップに取組みました。

2. 助成事業

- 介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- 1名当たり助成金は年間24万円、年間対象者は50名です。

II 特別事業の環境・業界動向について

- 高齢者住宅市場では、市場の拡大を期待して新規参入する事業者が相次ぎ、有料老人ホーム、高齢者専用賃貸住宅等の施設数は増加しています。多様な施設が増えてきたことで、高齢者住宅を選ぶ入居希望者の目は厳しくなっています。一方、世界的な経済・金融危機の影響で消費が冷え込むなどの経済環境の悪化も加わり、入居者確保に向けた事業間の競争も激化しています。

- 在宅介護・看護関連事業も競合事業所の増加が目立ち、利用者の獲得が厳しい状況となっています。

III 奈良・松戸特別事業の概要

- 開設17年目の奈良事業では、①利用者の視点に立ったサービスの提供、②人材育成、人材活用、③経営基盤の安定化、④複合施設であることを生かした各施設間の連携、⑤地域との連携、交流を重点課題として取組みました。
- 開設12年目の松戸事業では、平成19年度末に一般居室が満室となり、安定期を迎える一方で、入居者の加齢と共に要介護等認定者数も増え、介護サービス量も増加しました。重点課題として、①サービスの質の向上、②人材の育成、③経営基盤の安定化、④リスク管理体制の強化、⑤メンタルヘルスへの取組み強化、⑥地域社会及び他事業者と連携した事業展開に取組みました。
- 在宅介護・看護関連事業では、利用者増に向けた地域活動を積極的に実施するものの、事業収支面では厳しい状況にあり、引き続き創意・工夫を要する状況にあります。
- 奈良・松戸両有料老人ホームを合わせた入園一時金収入は計画を下回り、特に奈良では、入園金が高額となる大型居室を中心に空室への入居促進に苦慮する状況にあります。そのため昨年度に引き続き運転資金として本年度12億円（奈良事業5億円、松戸事業7億円）の追加借入を行いました。

1. 奈良事業

(1) 有料老人ホーム関連事業

① 有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業]

【 奈良ニッセイエデンの園 】

- ・一般居室の入居者募集計画20戸に対し、募集実績は11戸と大きく計画を下回り、一方で死亡退去戸数や介護居室への住替えの増加もあり、一般居室の空室は年度末25戸と対前年9戸増加しました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約数は365戸（入居率91.9%）となりました。新年度は、入園金価格の見直しも検討し入居率向上に向け募集体制を強化して参ります。
（一般居室337戸／362戸（93.1%）、介護居室28戸／35戸（80.0%））
- ・入居者の平均年齢は80.5歳（男性80.4歳、女性80.5歳）となり前年度比0.5歳上昇しました。
- ・介護予防の取組みでは、「いきいきサロン」や「介護予防教室」等を定期的に開催し、介護予防活動の定着化に努めました。
- ・総入居者数455名のうち要介護等認定者数は、年度末101名と前年より3名の増加となりました。
- ・食事の内容や食堂収支を検討し、11月に食費の値上げを実施しました。

② 診療所 【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・特定健診、特定保健指導に取り組むと共に、新型介護浴槽の設置により利用者に快適な入浴サービスの提供が可能となる等、利用者の視点に立った事業運営を推進しました。
- ・入院については、入院患者の QOL を高め終末期看護体制の充実を図る中で、過去最高の入院患者数になりました。

③ 疾病予防運動センター 【ニッセイ・アーク西大和】

- ・近隣地域への紹介ビラのポスティング等入会勧奨を図り新規会員数は大きく増加しましたが、退会者数も増加し、入退会の動きが激しい年度となりました。
- ・新規会員の年齢は、50 歳・60 歳代が中心であり、中高齢者プログラムの充実と担当制による会員へのきめ細かい指導に努めました。

④ 高齢者総合福祉センター 【ふれあいプラザ】

- ・文化教養講座では、人気のある歴史関連の講座の他、色鉛筆画とぬり絵、アロマセラピー、絵手紙等の創作・趣味の講座を充実、クリニックの医師や大学研究員による健康講座も人気を博しました。
- ・音楽鑑賞会では、ソプラノ歌手、ピアニストによるコンサートの他、奈良フィルハーモニー管弦楽団メンバーによる弦楽四重奏、ギター・歌によるフラメンコと多彩な音楽鑑賞会を企画・実施し好評を得ました。

(2)在宅介護・看護関連事業

① 在宅介護サービスセンター 【訪問介護、福祉用具貸与事業】 【ニッセイせいでい在宅介護サービスセンター ベル西大和店・奈良店】

- ・西大和店については、利用者の死亡、入院施設利用者が相次ぎ減少となりましたが、奈良店は、訪問介護の利用者数は対前年増加となりました。

② 訪問看護ステーション 【訪問看護事業】 【訪問看護ステーション西大和・ニッセイせいでい訪問看護ステーション奈良】

- ・西大和店・奈良店ともに、居宅介護支援事業所との連携を深め、退院前病院訪問を実施する等の活動を続ける中で、利用者数の増加につながることができました。

③ ケアプランセンター 【居宅介護支援事業】 【ニッセイせいでいケアプランセンター西大和、ニッセイせいでい在宅介護サービスセンター ベル西大和店・奈良店】

- ・ケアプランセンター西大和は、特定事業所(介護重度者対象)を目指し業務整理を行った結果、10 月には特定事業所加算を取得し、増収を図ることができました。これに伴い介護軽度者の受け皿として、ベル西大和店内に居宅介護支援事業を立ち上げました。
- ・ケアプランセンター西大和、ベル奈良店ともに、介護給付のケアプラン作成件数は対前年減少となりました。

④ デイサービスセンター 【河合町デイサービスセンター】(河合町受託)

- ・積極的な渉外活動の結果、利用者数は対前年増加となりました。河合町からの委託契約は年度末で終了とし、円滑に次の事業者へ引継ぎをすることができました。

(3)老人保健施設 【介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所療養介護】

【奈良ベテルホーム】

- ・リハビリ職員と介護看護職員との連携により、日々の援助に生活リハビリを積極的に取り入れるなど利用者の視点に立ったサービスの提供に努めました。
- ・周辺病院や居宅介護支援事業所への利用者紹介依頼の渉外活動に取り組む一方で、家族会の定期開催、ボランティアグループや近隣の小学校等との交流機会を増やす等、地域に根ざした施設運営を心がけた結果、2 月は過去最高の利用者数(110 名)となり、上期の利用者減をカバーし年間を通しての利用者数は昨年並みとなりました。また夜勤体制を 11 月に見直し経費削減に努めました。

2. 松戸事業

(1) 有料老人ホーム関連事業

① 有料老人ホーム 【特定施設入居者生活介護事業】 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・年初一般居室の空室がない状況でスタートしましたが、通所介護事業(H19 年度末に隣接する松戸愛光園への事業統合)跡地を改修し一般居室を 5 戸増設しつつ、空室の早期募集に努めた結果、入居者募集計画 13 戸に対し募集実績は 11 戸、年度末の介護居室を含めた入居契約数は 339 戸(入居率 96.3%)となりました。
(一般居室 311 戸/315 戸(98.7%)、介護居室 28 戸/37 戸(75.7%))
- ・入居者の平均年齢は 80.4 歳(男性 81.4 歳、女性 80.0 歳)となり、前年度比 0.8 歳上昇しました。
- ・介護予防では、4 月から「健康セミナー」を開催し好評を博し、9 月には認知症予防の講演会を開催、希望者に早期認知症の抽出検査を行い、「認知症予防プログラム」を開始しました。
- ・総入居者数 440 名のうち要介護等認定者数は、年度途中増加し年度末では 92 名と前年より 8 名の増加となりました。
- ・食事の内容や食堂収支を検討し、5 月に食費の値上げを実施しました。

② 診療所 【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・4 月より理学療法士を配置できたことからリハビリ患者数が増加、6 月からは一般病床の入院基本料加算を見直し、一般病床の利用率を高める等の増収対策に努めました。看護師も一般居室訪問に加わり、医療的な疑問や終末期の医療相談等に対応しました。

③ 疾病予防運動センター 【ニッセイセントラルフィットネスクラブ松戸】

- ・近隣の新規施設出店の影響で入会数が減少、5 年以上会員が全体の約 6 割を占め、平均年齢が 50 代の半ばとなりました。プログラムの見直しや設備・機器の改修で会員サービスの向上に心がけると共に、7 月にはセンター内に接骨院を開設してサービスの多様化を図りました。

④ 高齢者総合福祉センター 【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・音楽大学生やプロ演奏家を招いたロビーコンサートは、引き続き人気が高く、毎回多くの参加を得ま

した。バスツアーは「音楽会とグルメ」等の都市型企画が好評を博し、また、講演会では「日本文学」や「成年後見制度」のテーマに人気が集まりました。

(2) 在宅介護関連事業

○ 在宅介護サービスセンター

【在宅介護サービスセンター erval松戸店】

① ホームヘルプサービス事業 [訪問介護事業]

【ニッセイエデンヘルプステーション】

- ・新規契約の減少と介護度の高い利用者の契約終了が相次いだことから利用者数、訪問時間ともに対前年より減少となりました。
- ・通所介護事業は隣接の松戸愛光園に移管し、「松戸共同 WAC 事業協議会」を立ち上げました。